令和２年９月１５日

第１５５回エイズ動向委員会
委員長コメント

《令和元年　ＨＩＶ感染者・ＡＩＤＳ患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

１．今回の報告期間は、令和元年の約１年間
２．新規ＨＩＶ感染者報告数は、903 件（過去 20 年間で、14 番目の報告数）
３．新規ＡＩＤＳ患者報告数は、333 件（過去 20 年間で、17 番目の報告数）
４．ＨＩＶ感染者とＡＩＤＳ患者を合わせた新規報告数は 1,236 件（過去 20 年間で,14 番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

１．新規ＨＩＶ感染者：
- ○ 同性間性的接触によるものが 651 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 72%）
- ○ 異性間性的接触によるものが 136 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 15%）
- ○ 静注薬物によるものは 2 件
- ○ 母子感染によるものは 0 件
- ○ 年齢別では、特に 20～40 歳代が多い。

２．新規ＡＩＤＳ患者：
- ○ 同性間性的接触によるものが 180 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 54%）
- ○ 異性間性的接触によるものが 56 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 17%）
- ○ 静注薬物によるものは 1 件
- ○ 母子感染によるものは 1 件
- ○ 年齢別では、特に 30～50 歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和元年１月～12 月）】

１．保健所等におけるＨＩＶ抗体検査件数（確定値）は 142,260 件（過去 20 年間で、5 番目の件数）
２．保健所等における相談件数（確定値）は 129,695 件（過去 20 年間で、15 番目の件数）

《まとめ》

１．令和元年の新規ＨＩＶ感染者報告数及び新規ＡＩＤＳ患者報告数は、平成 29 年より減少しており、3 年連続での減少となった。

２．新規ＨＩＶ感染者及び新規ＡＩＤＳ患者報告の感染経路は、性的接触によるものが 8 割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。

３．献血における１０万件当たりの陽性件数は昨年と比べて同数であった。血液製剤によるＨＩＶ感染を防ぐため、ＨＩＶ感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。

４．新規報告数全体に占めるＡＩＤＳ患者報告数の割合は、依然として約 3 割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。

５．ＨＩＶ感染症は予防が可能な感染症である。ＨＩＶに感染していない者においては、適切な予防策をとること、ＨＩＶに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。